

第64回宮崎県学校体育研究発表大会

特別支援学校部会

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日程・会場

10月27日(金)	特別支援学校部会	8:55	9:40	10:40	11:40	13:30	14:30	15:50
		8:40	9:15	10:30	11:30	12:30	14:20	15:40
		受付	開会行事 視点説明 (20分)	授業発表Ⅱ (各部会) (50分)	授業発表Ⅰ (つながり) (50分)	授業研究 (50分)	昼休準備 食憩備	研究発表 研究協議 (50分)
会場：県立日南くろしお支援学校								

① 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	高等部	球 技 (バレーボール)	県立日南くろしお支援学校 教 諭 長 友 啓 輔
II (地区)	中学部	球 技 (くろしおバレーボール)	県立日南くろしお支援学校 教 諭 古 小 路 和 隆

② 研究発表

活動報告及び研究発表題目	発 表 者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～ICTの活用を通して子供たちの力を引き出す授業づくりをめざして～	県立小林こすもす支援学校 教 諭 森 玲 子

③ 授業発表・研究発表協議

役 職 名	氏 名
指導助言者	日本体育大学体育学部 准教授 村 井 敬太郎
	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 早 崎 達 也
司 会 者	県立延岡しろやま支援学校 教 諭 佐 藤 賢 司
記 録 者	県立延岡しろやま支援学校 教 諭 伊 東 寿 晃
	県立日南くろしお支援学校 教 諭 清 美 里
進 行	県立日南くろしお支援学校 教 諭 的 野 美 穂 子

④ 授業研究会

内 容	担 当 者
球技(ネット型) 思考力、判断力、表現力等の育成に向けた思考ツールの作成と評価	県立都城きりしま支援学校 教 諭 笠 野 武 志

特別支援学校部会

1 研究主題

「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」

～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

新学習指導要領の改訂では、学校教育に求められることとして、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることと示している。

体育科・保健体育科の目標においては、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を重視する観点から、運動や健康についての課題を見付け、その解決に向けた主体的・協働的な学習活動を通して、育成を目指す資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標として示している。

その中でも、「思考力、判断力、表現力等」は、社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいかを考えたりする力であり、変化が激しく予測困難な時代に向けてますますそれが求められているとしている。

本校の生徒の実態を見ると、授業や昼休みの時間を使って積極的に運動に取り組む生徒もいれば、運動に苦手意識をもち、体を動かすことに対して消極的な生徒がいる。体育科・保健体育科の授業においては、教師の指示を待って活動する生徒が多く、主体的に動くことが少ない。また、グループ活動では自分の意見を伝えたり相手の意見を受け入れたりすることが難しい生徒が多い。更に、教師の助言があれば課題に気付くことができる生徒もいれば、助言と撮影した動画を見ることで気付くことができる生徒もいる。

そこで本研究では、「思考力、判断力、表現力等」の育成に焦点を当て、タブレット端末やワークシート等を活用し、課題発見や解決に向けた練習方法などを、個人やグループで振り返りできるようにすることで、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができると考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

体育科・保健体育科の学習において、特に「思考力、判断力、表現力等」を柱とし、課題に気付かせ、その解決に向けた学習過程の中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を展開することによって、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、運動やスポーツを「する」「みる」「支える」「知る」等の豊かなスポーツライフを実現し、運動を継続するための児童生徒の育成に繋がるものと考え。更に、将来の自立に向け、既得の知識や技能をどのように活用すれば良いのかなどを思考し、判断し、表現する力が育成されるのではないかと考える。

4 研究の内容

(1) 指導と評価の一体化

○ 指導内容の系統化⇒日南くろしお支援学校独自の学習内容系統表の作成と活用

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

○ 思考ツール活用⇒タブレット端末やワークシートの活用

5 研究の実際

(1) 指導と評価の一体化

○ 県立日南くろしお支援学校独自の学習内容系統表の作成と活用について

「思考力、判断力、表現力等」に焦点を当て研究を進めるにあたって、はじめに指導内容の系統化を図るために、小学部「ボール遊び」、「ボールを使った運動やゲーム」、中学部、高等部「球技 ゴール型」における学習内容系統表を作成した。

小学校段階は「運動に関する思考力、判断力、表現力等」の1領域、中学校段階からは「体力、健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」「生涯スポーツの実践に関する思考力、判断力、表現力等」の学習内容の領域で構成されているが、特別支援学校の学習指導要領解説においては、そのような領域は示されていない。そのため、学習内容系統表の作成に当たり、小学校から中学校の学習指導要領解説を参考にし、学校独自に1段階から7段階までのつながりを示した。更に、それを基にして指導と評価の計画の作成を行い、指導と評価の一体化を図った。

【日南くろしお支援学校版 学習内容系統表 思考力、判断力、表現力等編】

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

○ ICT機器やワークシートを活用した思考ツールについて

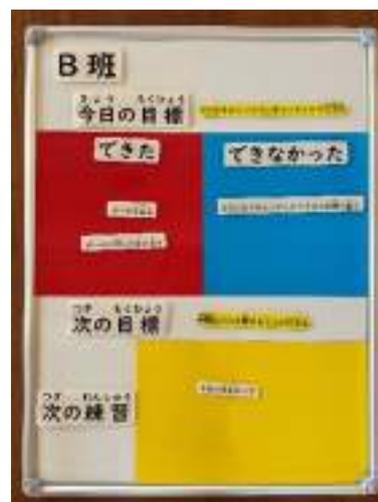
生徒の「思考力、判断力、表現力等」をサポートするために、本校ではタブレット端末や学習カード等を活用した。自分たちで練習の内容や動きのポイントを確認できるようなデジタル学習カードや、試合の振り返りをするための視点を示したワークシート等を活用することで、自ら考え、気づき、判断する力を身に付けられるように工夫した。生徒たちに配付したデジタル学習カードの内容は、ホワイトボードにも掲示し、タブレット端末を開かなくてもすぐに確認することができるようにした。振り返りを行う際は、練習や試合の様子を動画で撮影し、生徒たちが客観的に評価できるようにした。また、技能のポイントを細分化することで、視点を絞って評価できるように工夫した。



ワークシート(個人)



デジタル学習カード



振り返りボード(チーム)



技能のポイント



技能チェックシート



授業の様子

6 成果と課題

成果

- 学習内容系統表の作成を行ったことで、小学部から高等部までの「思考力、判断力、表現力等」のつながりを整理することができ、児童生徒の実態に応じた目標の設定や評価がしやすくなった。
- 本校独自の思考ツールを作成し活用したことで、生徒同士の対話が増え、主体的に活動に取り組むことができるようになってきた。
- デジタル学習カードでは、動きのポイントや練習方法を動画で示したことにより、生徒が自分たちで繰り返し確認できた。
- 技能のポイントを簡潔に示したことにより、生徒たちが視点を絞って自己や相手の評価ができるようになった。

課題

- 学習内容系統表の作成に当たり、特別支援学校の学習指導要領においては技能以外の観点において「例示」が示されていないため、小学校や中学校の学習指導要領を参考にしながら作成した。そのため、小学校や中学校の学習指導要領に記載されていない部分を作成することが非常に難しく、時間を要した。
- 思考ツールを作成したが、生徒たちが主体的に活用するまでに時間を要した。
- 特別支援学校における体育の授業での「思考力、判断力、表現力等」の育成が難しかった。
- 技能のポイントを簡潔に示し、視点を絞って評価する方法でも難しい生徒に対する思考ツールの作成が不十分だった。

中学部 保健体育科 学習指導案

日時 令和5年10月27日(金) 第2校時

対象 中学部Aグループ(13名)

場所 県立日南くろしお支援学校 体育館

指導者 古小路 和隆(T1)、的野 美穂子(T2)
落合 竜哉(T3)、太田 有紀(T4)

1 単元名 球技 ネット型「くろしおバレーボール」(バレーボール)

2 単元の目標

- (1) 球技の楽しさや喜びを味わい、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができる。
(知識及び技能)
- (2) 自分やチームの課題を見付け、課題解決の方法を選択し、仲間に伝えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合って最後まで安全に運動をすることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

本単元は、「特別支援学校 学習指導要領 各教科等編(中学部) 保健体育 球技」を取り上げている。球技は、ルールや作戦を工夫し、個人対個人及び集団対集団の攻防によって友達と力を合わせて勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動であり、ゴール型、ネット型、ベースボール型などで構成されている。ネット型には、コート上でネットはさんで相対し、体や用具を操作してボールを空いている所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合う運動である。

4 生徒の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本校は知肢併置の小学部、中学部、高等部からなる特別支援学校であり、中学部には、24名の生徒が在籍している。保健体育の授業は、通常学級と重複障がい学級Ⅰ・Ⅱ課程に在籍している生徒で、合同で実施している。単元ごとに実態別のグループを編制し学習活動を行っている。本グループは、中学部3年生6名、2年生5名、1年生2名、計13名(男子9名、女子4名)の通常学級の生徒で構成されている。地域の小学校や中学校から入学、転入した生徒が多く、運動技能の習得や運動経験の積み重ねなどに多様な実態がある。

これまでの保健体育の学習では、単元によって全学年合同とグループ別の授業形態を取ってきた。授業形態を変えることで、生徒同士で声を掛け合ったり、技能を高め競い合ったりして参加する姿が見られる。また、体育の授業だけでなく昼休みに自らスポーツに取り組むなど、運動に積極的な生徒もいる。

(2) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、昨年度のソフトバレーボールを、ボールをはじかずにキャッチでパスをつなぎ、相手コートに返球するというルールに簡易化した「キャッチバレーボール」を題材として扱っている。生徒の実態としては、ボールの方向に体を向けることができる生徒もいれば、ボールの落下地点に移動してキャッチすることが難しい生徒もいるなど、技能の習得状況は様々である。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、グループ活動を取り入れ、キャプテンを中心にチーム名決めや目標決めなどを行っているが、自分の意見を伝えたり相手の意見を受け入れたりするこ

とが難しい生徒が多い。また、振り返りを行う際、自他の課題に自分で考えて気付くことや教師の助言があっても課題に気付くことができる生徒は少ない。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、生徒同士で声を掛け合うことが少なかったが、教師が手本を示したり、グループでの活動を繰り返したりする中で、少しずつ協力して取り組もうとする姿勢が見られてきた。一方で、障がいの特性からルールを理解に時間がかかる生徒や、失敗を恐れて活動に参加しない生徒、自分のプレーに集中してしまい、仲間を意識しながら活動することが難しい生徒もいる。その為、授業内容やルールなどの工夫を行いながら、生徒同士で声を掛け合って活動に参加したり、自ら行動したりする意欲や態度を培っていく必要がある。

(3) 体力の状況

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	0	0	0	2	7	0	1	0	1	2
割合	0%	0%	0%	22%	78%	0%	25%	0%	25%	50%

体力テストでは、評価DやEの生徒がほとんどで、どの種目も宮崎県の平均より大きく下回っている。本校には、陸上競技同好会があり、本グループの4人が所属している。

体力テストの結果は、DやEの結果が多いが、昨年度より記録が向上している生徒が多くいる。体育の授業を含め、昼休みにバスケットボールやバレーボールなどで自ら体を動かす生徒がおり、運動時間の増加や身体の動かし方の習得が記録向上に繋がっていると考える。

5 学習を進めるにあたって

本単元の実施にあたっては、これからの豊かなスポーツライフ実現を意識した授業を取り入れたいと考えている。運動やスポーツには、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方がある。バレーボールは、オリンピックや世界大会など、多くのメディアに取り上げられるスポーツである。また、ルールや用具を工夫したシッティングバレーボールや風船バレーボールなどもあり、多くの人が参加をすることができるスポーツである。今回、バレーボールを経験することで、家庭でスポーツ観戦をしたり、ニュース記事に目を向けたりして「みるスポーツ」として関わったり、高等部進学時や施設などでバレーボールを「するスポーツ」として積極的に参加をしたりすることで、心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力を育むことにつながる。また、単元の中で、バレーボールの歴史に触れたり、審判を生徒に行わせたりして「知る・支える」部分も取り扱っていく。

本単元の指導にあたっては、生徒の実態としてバレーボールの特徴であるボールを持たないことやアンダーハンドパス、オーバーハンドパスなどの基本技術の習得に難しさがある。また、常にボールが動いているため、ボールや仲間と連動性のある動きを求められる。本来のバレーボールのルールで活動することは難しいと考え、バレーボールのルールを簡易化した「くろしおバレーボール」に取り組むことにした。コートは、バドミントンコートで行い、ネットの高さは150cmとする。

その他の工夫としては、チーム人数を4人程度にしている。少人数にすることで、個人がボールに触れる機会とラリーの機会を増やし、ボールを繋ぐ楽しさや得点を決めて仲間との喜びを分かち合う機会が増えることを狙っている。また、技能の習得状況を評価して段階的にゲームのルールを変更し、より深い楽しみや喜びを感じられるようにする。

本時の指導にあたっては、前時までに取り組んできた基本技術やチームの動きをゲームで活用し、チームで「できた点」と「できなかった点」を評価し、次時の課題解決に繋げることができるようになりたい。試合の前に、チームで前時までの振り返りと目標の確認を行い、目標を意識してゲームに取り組めるようにする。チームの振り返りでは、タブレット端末で撮影をした映像を見て、ポイントと

なる項目をカード化し、「できた」と「できなかった」に分けていく。カードにして提示することで、視点を焦点化して映像を見たり、チームで話し合う時にカードを操作して自分の考えを伝えたりすることができる。ポイントを明確にすることで、自分なりの伝え方で話合いに参加することができ、自分の考えを伝える力や友達と協力して学習に取り組む態度を身に付けられると考える。

6 単元の評価規準

○ 単元の評価規準（単元の評価規準：特別支援学校学習指導要領より）

全ての単元の評価規準	段階	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	Ⅱ段階	○ 球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができる。	○ 球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。	○ 球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすることができる。

○ 学習活動に即した評価規準

学習活動に即した評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① ゲームに必要な技能を知り、自分一人で選択肢から選び、話したり書き出したりができる。 ② ゲーム中、片手もしくは両手で体の前や下からボールをはじくことができる。 ③ ゲームの中で、ボールの落下地点に移動することができる。（キャッチ可）	① 自分やチームの良かった点と課題を見付けることができる。 ② 提供された練習方法を自分たちで選ぶことができる。 ③ 仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	① きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合うことができる。 ② 仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。 ③ 球技の学習に見通しをもって取り組むことができる。

※（思考・判断・表現：「学習内容系統表 ver.くろしお」より）

7 単元の学習計画及び評価計画

時間	1	2	3	4	5	6	
指導内容	知		①基本的な技能	①基本的な技能	①基本的な技能	①基本的な技能	
	思		①課題発見				
学習の流れ	主	①きまりやルール					
	0	オリエンテーション 1 あいさつ ・ 整列、挨拶	1 あいさつ ・ 整列、挨拶	1 あいさつ ・ 整列、挨拶	1 あいさつ ・ 整列、挨拶	1 あいさつ ・ 整列、挨拶	
	10	2 出欠、体調確認 3 バレーボールについて	2 準備体操・補強運動 3 本時の確認 ・ 目標の確認 ・ 練習内容の確認				
	20	4 グループ活動 ・ チーム分け ・ 係決め	4 活動内容の確認 くろしおバレーボール ・ ルールの確認	4 個人技能練習 ・ アンダーハンドパス	4 個人技能練習 ・ オーバーハンドパス	4 個人技能練習 ・ アタック ・ サーブ	4 個人技能練習 ・ アタック ・ サーブ
	30	5 準備体操・補強運動					
	40	6 振り返り ・ 係などの確認	5 振り返る ・ 課題発見	5 振り返り ・ 課題発見	5 振り返り ・ 課題発見	5 振り返り ・ 課題発見	
	50	7 あいさつ ・ 整列、挨拶	6 あいさつ ・ 整列、挨拶	6 あいさつ ・ 整列、挨拶	6 あいさつ ・ 整列、挨拶	6 あいさつ ・ 整列、挨拶	
評価	知	ワークシート	映像 (タブレット)	映像 (タブレット)	映像 (タブレット)	映像 (タブレット)	
	思						
	主	観察	観察				
準備物		・ ホワイトボード ・ 体調チェックシート ・ タブレット端末 ・ ワークシート	・ ホワイトボード ・ 体調チェックシート ・ タブレット端末 ・ ワークシート ・ ボール ・ ネット	・ ホワイトボード ・ 体調チェックシート ・ タブレット端末 ・ ワークシート ・ ボール ・ ネット	・ ホワイトボード ・ 体調チェックシート ・ タブレット端末 ・ ワークシート ・ ボール ・ ネット	・ ホワイトボード ・ 体調チェックシート ・ タブレット端末 ・ ワークシート ・ ボール ・ ネット	
	保健分野						
体育理論	「文化とスポーツの意義」		「運動の安全な行い方」				
自立活動	「コミュニケーション」		「身体の動き」	「身体の動き」	「身体の動き」	「身体の動き」	

時間	7	8 (10/11) 事前	9	10	11	12 (10/27) 当日
指導内容	②基本的な技能の活用					
	①課題発見	③他者に伝える	②課題解決	③他者に伝える	②課題解決	③他者に伝える
学 習 の 流 れ	①きまりやルール	②話し合いへ参加	②話し合いへ参加	②話し合いへ参加	②話し合いへ参加	②話し合いへ参加
	0	1 あいさつ ・整列、挨拶				
	10	2 準備体操・補強運動				
	20	3 本時の確認 ・チーム目標の確認 ・練習内容の確認	3 本時の目標確認 ・チーム目標の確認 ・練習内容の確認	3 本時の目標確認 ・チーム目標の確認 ・練習内容の確認	3 本時の目標確認 ・チーム目標の確認 ・練習内容の確認	3 本時の目標確認 ・チーム目標の確認
	30	4 チーム技能練習 ・対人パス ・返球練習	4 くろしおバレーボール ・課題解決の練習	4 チーム練習 ・課題解決の練習	4 くろしおバレーボール ・課題解決の練習	4 くろしおバレーボール
	40	6 振り返り ・課題発見	5 振り返り ・試合の振り返り ・課題発見	5 振り返り ・練習の振り返り ・チーム目標の確認	5 振り返り ・試合の振り返り ・課題発見	5 振り返り ・試合の振り返り ・課題発見
	50	7 あいさつ ・整列、挨拶	6 練習内容の選択 7 あいさつ ・整列、挨拶	6 あいさつ ・整列、挨拶	6 練習内容の選択 7 あいさつ ・整列、挨拶	6 練習内容の選択 7 あいさつ ・整列、挨拶
評価	知	映像 (タブレット)				
	思	観察、チームボード	観察	観察、チームボード	観察	観察、チームボード
	主	観察	観察	観察	観察	観察
準備物		ホワイトボード ・体調チェックシート ・タブレット端末 ・ワークシート ・ボール ・ネット	ホワイトボード ・体調チェックカード ・タブレット端末 ・チームボード ・ボール ・ネット	ホワイトボード ・体調チェックカード ・タブレット端末 ・チームボード ・ボール ・ネット	ホワイトボード ・体調チェックカード ・タブレット端末 ・チームボード ・ボール ・ネット	ホワイトボード ・体調チェックカード ・タブレット端末 ・チームボード ・ボール ・ネット
	保健分野					
体育理論	「運動の安全な行い方」					
自立活動	「環境の把握」	「環境の把握」	「運動の多様性」 「コミュニケーション」	「運動の学び方」 「コミュニケーション」	「運動の学び方」	「運動の多様性」 「コミュニケーション」

時間	13	14	15
指導 内容	知	③簡易化されたゲーム	③簡易化されたゲーム
	思	②課題解決	
	主	③「積極的な姿勢」	③「積極的な姿勢」
	0	1 あいさつ ・ 整列、挨拶	1 あいさつ ・ 整列、挨拶
	10	2 準備体操・補強運動 3 本時の目標確認 ・ チーム目標の確認 ・ 練習内容の確認	2 準備体操・補強運動 3 本時の目標確認 ・ チーム目標の確認
	20	4 チーム練習 ・ 課題解決の練習	4 チーム練習
	30	5 振り返り ・ 練習の振り返り ・ チーム目標の確認	5 くろしおバレーボール ・ リーグ戦形式
学 習 の 流 れ	40	6 振り返り ・ 試合の振り返り ・ 課題の発見	6 振り返り ・ 試合の振り返り ・ 成果の発見
	50	6 あいさつ ・ 整列、挨拶	7 あいさつ ・ 整列、挨拶
	知	映像(タブレット)	映像(タブレット)
	思	観察	観察
評 価	主	観察	観察
	準備物	・ ホワイトボード ・ 体調チェックカード ・ タブレット端末 ・ チームボード ・ ボール ・ ネット	・ ホワイトボード ・ 体調チェックカード ・ タブレット端末 ・ チームボード ・ ボール ・ ネット
保健分野			
体育理論	「運動の学び方」	「運動の多様性」	「運動の多様性」
自立活動		「人間関係の形成」	「人間関係の形成」

8 本時の学習 (12/15)

(1) 本時の目標

- 仲間との話し合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 仲間と一緒に作戦などの話し合いに参加しようとすることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時の評価項目

- 仲間との話し合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができたか。
(思考・判断・表現)
- 仲間と一緒に作戦などの話し合いに参加しようとすることができたか。
(主体的に学習に取り組む態度)

9 学習指導過程

時間	学習内容及び学習活動	チーム別学習活動及び指導上の留意点			資料・準備
		A (赤) チーム	B (青) チーム	C (白) チーム	
授業前	1 授業の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合した生徒から授業準備を行う ・ 授業前にチームの健康係が、人数確認、体調チェックを行い、自分と仲間の健康状態を確認させるように促す。(T1) ・ チームの準備係に、ボールなどの必要な道具を準備するように促す。(T1) ・ チームのピブスを着用するように促す。(T1) ・ 系の活動を安全に協力して取り組めるように必要に応じて言葉掛けをする。(T2～T4) 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 体調チェックカード
1分	2 整列・挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム毎に集合し、整列をする ・ キャプテンが声掛けをして、チーム毎に整列するように促す。(T2～T4) ・ 係の号令に合わせて姿勢を正し、全員で始まりのあいさつをする ・ 分離礼を意識するように言葉掛けをする。(T1) 			
2分	3 本時の学習内容 ① 準備体操・リズムジャンプ ② 本時の目標確認 ③ ゲーム ④ 振り返り ⑤ 次時の練習を決めよう ⑥ まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習の流れについて、教師の話を聞く ・ 本時の学習の流れを視覚的に示し、簡潔に説明することで学習に見通しをもたせる。(T1) ・ ゲームの順番を伝える。(T1) 			<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボード ・ 学習の流れ
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をしっかり聞くことができようように言葉掛けを行う。(T3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をしっかり聞くことができようように言葉掛けを行う。(T2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話をしっかり聞くことができようように言葉掛けを行う。(T4) 	

5分	4 準備体操・補強運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム毎に準備体操及び補強運動(リズムジャンプ)を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーン ・ 体操カード 			
5分	5 本時の目標 ○ 全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備体操とリズムジャンプをチーム毎に行うように、準備係に伝える。(T1) ・ 拍手をして場を盛り上げることと一定のリズムでジャンプすることを促す。(T1～T4) ・ 準備体操やリズムジャンプのポイントを意識して取り組むように声掛けをする。(T2～T4) ・ リズムジャンプが終わったら、キャプテンが声を掛けて整列するように促す。(T2～T4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームボード ・ テレビ ・ タブレット端末 			
15分	6 ゲーム 「くろしおバレーボール」 ・ 1試合5分間 ・ 3試合	<p style="border: 2px solid black; padding: 5px;">本時の目標「みんなで話し合って、チームの課題を見つけよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標の確認後に、チーム毎に分かれ、チーム目標を確認するように伝える。(T1) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標に応じた見本を示したり、言葉掛けをしたりして目標の確認を行う。(T3) </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を確認することができているか確認を兼ねて質問を行う。(T2) </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉での確認だけで難しい時にはタブレット端末を用いて確認するよう促す。(T4) </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「くろしおバレーボール」を行う ・ 必要なルールの確認を行う。(T1) ・ 試合に入っていないチームは、審判(ライン判定)を行うよう伝える。(T1) ・ 得点した時に称賛したり、失点した時に声を掛け合ったりして場を盛り上げ、仲間を認めることや思いやる気持ちなどに触れさせる。(T2～T4) ・ 必要に応じてコートに入り、一緒にプレーをしたり、言葉掛けをしたりする。(T2～T4) ・ 必要に応じて試合と止めて、ルールや動きの確認をする。(T1) ・ 固定の位置から、試合の撮影をする。(T2～T4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標に応じた見本を示したり、言葉掛けをしたりして目標の確認を行う。(T3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を確認することができているか確認を兼ねて質問を行う。(T2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉での確認だけで難しい時にはタブレット端末を用いて確認するよう促す。(T4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボール ・ ネット ・ タイマー ・ タブレット端末 ・ 得点板
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標に応じた見本を示したり、言葉掛けをしたりして目標の確認を行う。(T3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標を確認することができているか確認を兼ねて質問を行う。(T2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉での確認だけで難しい時にはタブレット端末を用いて確認するよう促す。(T4) 				

15分	7 ゲームの振り返り ・ 目標の評価 ・ 目標の設定 ・ 練習の選択	<div data-bbox="199 470 263 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム毎にチーム目標の評価を行い、次時の目標設定と練習選択を行う </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の評価が難しい時は、映像を教師と一緒に確認を行う。(T1~T4) ・ 映像を見るポイントを伝え、視点を明確にする。(T1) ・ 技能カードを「できた」、「できなかつた」に分けるように伝える。(T1) ・ チーム担当の教師は、課題に沿った振り返りができるように生徒から発問があった場合は答えたり、様子を助言をしたりする。(T2~T4) ・ 課題に沿った発言や新しい課題を見つけた発言があった時は、称賛をする。(T1~T4) ・ 課題発見が早く終わったチームは、次時の練習内容を決めるように促す。(T2~T4) <table border="1" data-bbox="593 833 944 1608" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが難しいような時には、言葉掛けを行い、一緒に振り返りを行う。(T3) ・ 拳手や技能カードの操作など、生徒が評価を伝えやすい方法を提示する。(T3) </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが難しいような時には言葉掛けを行い、一緒に振り返りを行う。(T2) ・ 振り返りが難しい時には、映像を見ながら教師と一緒にポイントを確認する。(T4) </td> </tr> </table> <div data-bbox="949 448 1013 1579" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各チームの成果・課題や次時に取り組み練習内容を発表する </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャプテンが声掛けをして、チーム毎に整列するように促す。(T2~T4) ・ 発表内容を技能カードのポイントに沿って称賛する。(T1) <div data-bbox="1141 560 1204 1579" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 係の号令に合わせて姿勢を正し、全員で終わりのあいさつをする </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分離礼を意識するように言葉掛けをする。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが難しいような時には、言葉掛けを行い、一緒に振り返りを行う。(T3) ・ 拳手や技能カードの操作など、生徒が評価を伝えやすい方法を提示する。(T3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが難しいような時には言葉掛けを行い、一緒に振り返りを行う。(T2) ・ 振り返りが難しい時には、映像を見ながら教師と一緒にポイントを確認する。(T4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームボード ・ 技能カード ・ 練習ボード ・ タブレット端末
<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが難しいような時には、言葉掛けを行い、一緒に振り返りを行う。(T3) ・ 拳手や技能カードの操作など、生徒が評価を伝えやすい方法を提示する。(T3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りが難しいような時には言葉掛けを行い、一緒に振り返りを行う。(T2) ・ 振り返りが難しい時には、映像を見ながら教師と一緒にポイントを確認する。(T4) 				
6分	8 まとめ				
1分	9 終わりの挨拶				

10 本単元に関する生徒の実態及び本時の目標

【評価基準】◎・・・よくできた ○・・・できた △・・・もう少し

	氏名 性別	単元に関する 生徒の実態	本時の目標	評価項目	評価
A (赤) チーム	A (男)	運動が好きで、積極的である。自分の意思を伝えることができるが、人前で話すことが苦手である。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を自分や仲間と考え、意見を伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
	B (男)	好きな運動に、積極的に動くことができる。自分で思考することは難しい。教師と一緒に活動したり、発言したりすることが多い。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師と一緒に考え、項目を選んだり分けたりすることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	教師や仲間の言葉掛けに返事やうなずきなどをすることができたか。	
	C (男)	運動が好きで、積極的に取り組むことができる。言葉で伝えることはできるが、課題に沿って考えることは難しい。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師や仲間と相談をして、自分の考えを伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
	D (女)	運動は好きで、意欲的に体を動かすことができる。自分で考えることや自分の意見を伝えるのに時間がかかる。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師と一緒に考え、項目を選んだり分けたりすることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	教師や仲間の言葉掛けに返事やうなずきなどをすることができたか。	
B (青) チーム	E (女)	運動が好きで、積極的に取り組むことができる。課題を整理することで自分の考えを伝えることができる。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題に対して自分で考え、仲間に意見を伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
	F (男)	運動に積極的に取り組むことができる。自分の考えを伝えることができる。相手からの助言を受け入れにくい。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師や仲間と相談をして、自分の考えを伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
	G (女)	運動に意欲的に取り組むことができる。自分で考えることはできるが、発言は苦手である。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師や仲間と相談をして、自分の考えを伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとするすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	

	H (男)	運動は好きだが、自分で考えて動くのは難しい。課題を整理することで、自分で考えて、発言することはできる。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師と一緒に考え、項目を選んだり分けたりすることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。	教師や仲間の言葉掛けに返事やうなずきなどをすることができたか。	
	I (男)	運動は好きで、意欲的に取り組むことはできる。自分の考えを言葉で伝えることはできる。集団への参加は、苦手である。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師や仲間と相談をして、自分の考えを伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
C (白) チーム	J (女)	運動は、好きではないが、活動に参加することはできる。課題に対しての自分の考えを伝えることはできる。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題に対して自分で考え、仲間に意見を伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
	K (男)	運動に取り組むことはできるが、精神面が不安定な時は、行動が消極的になる。話し合いでは、自分の考えを伝えることはできる。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師や仲間と相談をして、自分の考えを伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	
	L (男)	運動は好きで、意欲的に取り組むことができる。自分で考えたり、発言したりすることは苦手である。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師と一緒に考え、項目を選んだり分けたりすることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。	教師や仲間の言葉掛けに返事やうなずきなどをすることができたか。	
	M (男)	運動は好きで、意欲的に取り組むことができる。課題を整理することで、自分で考えて発言することはできる。	仲間との話合いに参加し、自分の意見や考えを教師と一緒に伝えることができる。	話合いで、課題を教師や仲間と相談をして、自分の考えを伝えることができたか。	
			仲間と一緒に作戦などの話合いに参加しようとすることができる。	チームで集まり、仲間に声を掛けたり、意見を伝えたりできたか。	